

「すべての子どもに5歳の誕生日を」

Hand in Hand

第37回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金キャンペーン

11月～12月は、ハンド・イン・ハンド募金月間・誰でも参加できるボランティア活動です！

ハンド・イン・ハンド募金は、
どなたでも参加できる募金活動です。
今年のテーマは、
「すべての子どもに5歳の誕生日を」
詳しくは、鳥取県ユニセフ協会まで。

ユニセフ写真展

長谷部誠選手が見た、感じた「レジリエンス」

インドネシア・スマトラ島沖地震発生から10年が経過した被災地を長谷部誠選手が訪問。レジリエンス(環境変化に対してしなやかな回復力を持つ)を目指したユニセフの復興支援活動と成果を伝える。



© 日本ユニセフ協会/2014/Mariko.Miura

■ 2016年 ■

1月13日(水)～1月19日(火) 9:00～22:00 倉吉未来中心

1月23日(土)～1月25日(月) " イオン日吉津店

1月28日(木)～2月 9日(火) " とりぎん文化会館

※ 最終日は、倉吉未来中心 15:00、その他の会場 16:00まで

[今後の活動予定]

- ハンド・イン・ハンド募金
 - 11月 29日(日) 10:30～12:00 倉吉未来中心
 - 12月 12日(土) 10:30～11:30 AEON鳥取北店
 - 12月 15日(火) 9:30～11:30 AEON日吉津店
 - 12月 20日(日) 13:30～14:30 鳥取駅前
 - 12月 31日(木) 12:00～13:00 鳥取駅前
- 2015市民活動フェスタ in とっとり 参加
 - 11月 28日(土) 12:30～16:00 (鳥取市 さざんか会館)
- ユニセフ学習会
 - 11月 30日(月) 10:00～13:00 (鳥取県生協 西部支所)
- 第4回 役員会
 - 11月 30日(月) 14:00～16:00 (鳥取大学 広報センター)
- くらよし国際交流フェスティバル 参加
 - 12月 5日(日) 10:00～15:00 (倉吉市 伯耆しあわせの郷)
- 西部ボランティアミーティング
 - 12月 12日(土) 10:00～12:00 (米子市男女共同参画センターかぶりあ)
- ユニセフ学習会
 - 2016年 1月 13日(水) 10:30～12:00 (鳥取市 さざんか会館)
- ボランティア学習会
 - 2016年 1月 19日(火) 13:00～15:00 (リフレプラザ倉吉)

ボランティア募集 !!

鳥取県ユニセフ協会の活動は、
すべてボランティアの方によって支えられています。
一緒にユニセフ活動をしてみませんか。
みなさまのお力をお待ちしております!!

賛助会員募集!

日本ユニセフ協会と各協定地域組織の活動を賛助会費によってご支援いただく方法です。現在、鳥取県でも多くの賛助会員の方にご協力いただいています。鳥取から世界の子どもたちを支えましょう!!

種類	対象	賛助会費
一般賛助会員	個人	一口 5,000円
学生賛助会員	学生(18歳以上)	一口 2,000円
団体賛助会員	団体、法人、企業	一口 100,000円

賛助会員期間は、入会日より1年間です。賛助会費は寄付金控除の対象になります。一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限ります。

■ ユニセフライブラリー

ユニセフの活動を紹介するビデオ・DVD・パネル・学習教材等の貸出しを行っています。

■ ビデオ・DVD

「ユニセフと地球のともだち」「すべての子どもに教育を」「シユンシユン-子どもたちからのメッセージ」など

■ パネル

「ユニセフってなあに」「わたしも学校に行きたい」

■ 学習教材

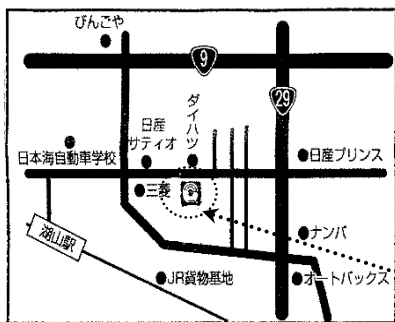
「地図でユニセフ」「地球のともだちユニセフワークブック」幼児向け絵本「ちきゅうからのしつもん」など

■ 展示ツール

ネパールの水がめ、マラリア対策の蚊帳、経口補水塩など

鳥取県ユニセフ協会

〒680-0931
鳥取市岩吉175-4 鳥取県生協内
TEL : 0857-30-4535
FAX : 0857-31-3330
E-Mail : unicef-tottori@juno.ocn.ne.jp



ボランティア登録、資料貸出、その他お問い合わせ等は、事務局までご連絡ください。また、どなたでもお気軽にお立ち寄りください。

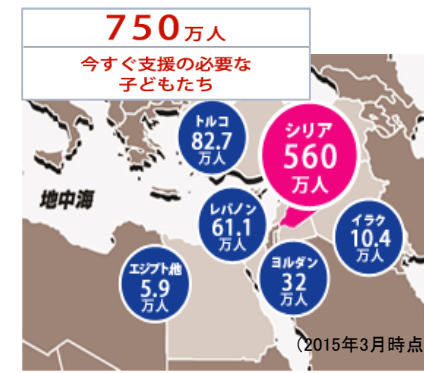
月・火・金 10:00～16:00
水 10:00～12:00

鳥取県生協本部 1階内になります!

unicef Report ▶▶▶ 世界の子どもたちは今...

5年目を迎えたシリア危機 - 増え続ける難民

5年目にはいったシリア危機。シリア国内にいる560万人以上の子ども達は、非常に過酷な状況に置かれています。レバノン、トルコ、ヨルダンなどの周辺国で、避難民として生きるシリアの子どもたちは200万人。さらに、避難民を受け入れているコミュニティに暮らす360万人の子どもたちもまた、もともと脆弱だった教育や保護といった社会サービスにかかる負担によって、影響を受けています。ユニセフは、シリア国内とシリアからの避難民を受け入れている周辺国において、人道支援を拡大。感染症を予防するための予防接種、衛生環境を保つための衛生用品の配布、トイレの設置、安全な飲料水の提供などに加え、子どもたちへの心のケアや教育の支援も行っています。



(出典: UNICEF Syria Crisis 2014 Annual situation report)

シリア危機のもうひとつの側面 ~ 紛争で過酷な児童労働が増加

武力紛争が始まる以前のシリアは中間所得国であり、人々は十分な生活を営み、ほとんどの子どもが学校に通い、国民の識字率は90%を超えていました。しかし、4年半におよぶ紛争は400万人近い難民と760万人の国内避難民を生み出し、シリア国民の5人に4人が貧困状態の中で暮らしています。2011年に14.9%だった失業率は、2014年末時点で57.7%まで上昇しました。その結果、シリア国内や周辺国では、多くの子どもが生きていくために労働に従事せざるを得ない状況が生まれています。

- ・ヨルダンでは、調査したシリア難民の家庭のおよそ半数で、子どもが家計の一部もしくはすべてを担っている。
- ・現在子どもを雇用しているヨルダンの雇用者の84%が、紛争前は子どもを雇用していなかった。
- ・ヨルダンの農場で働く子どもの5人に1人は12歳未満。
- ・シリア国内では9歳程度の幼い子どもが危険な肉体的労働を強いられ、トルコではわずか8歳、レバノンでは6歳のシリア難民の子どもが働かされている。



© UNICEF/NYHQ2014-2080/Lyon
家計を助けるために働くヨルダンに身を寄せる12歳のシリア難民の男の子

260万人以上

学ぶチャンスを奪われ
未来を閉ざされる子どもたち

シリアでは、およそ350万人の子どもたちが国内避難民としての生活を余儀なくされ、260万人の子どもたちが学校に通っていません。また、シリア国内にある学校の4,200校-5校に1校-は破壊、損壊、避難民の避難所、もしくは軍によって占拠されるなどして、学校として使用出来ない状況です。長引く情勢不安の中、さらに100万人の子どもたちが中退してしまう恐れがあり、シリア国内の出席率は36%にまで落ち込んでいます。

いかなる時も、子どもの保護を

たとえ故郷を離れていても、海や陸地を移動していても、目指す国の海岸にあっても、すべての子どもへの保護は、子どもの権利条約に則っています。ユニセフは紛争終結のためのより強力な外交努力を通じて、子どもたちに悲劇をもたらすこの巨大な流れの根本原因に取り組むべきであること、そして難民たちの祖国への開発支援と人道支援が必要であると国際社会に対して訴えています。

(公財)日本ユニセフ協会HPより



激化する紛争。増え続ける「難民」。750万人の子どもたちに支援の手を!

- ゆうちよ銀行 募金口座
振替口座 : 00190-5-31000
口座名義 : 公益財団法人 日本ユニセフ協会
* 通信欄に「シリア」「K1-310 鳥取県」と明記 願います。
* 窓口での振り込みの場合は、送金手数料が免除されます。

活動報告

学習講師研修会 6月25日(木)26日(金) 日本ユニセフ協会 ユニセフハウス



年に1回、学習講師を育成するために各地域組織からボランティアが集まって学習会が開催されます。今年の学習講師研修会では、5地域組織からの事例紹介と、ワークショップ「わたしたちがつくる“子どもの優しい空間”」を全員で体験しました。

←千葉県ユニセフ協会 大型紙芝居と人形劇「水のはなし」

七夕セミナー 7月4日(土) 海外移住と文化の交流センター(神戸市)

今年、中部のボランティア2名の方が参加しました。初めに、「国連で働いた30年、ユニセフができること」というテーマで久木田 純さん(元国連職員)の講演があり、その後、ワールドカフェという形で、幸せ、教育、貧困、平和など7つのテーマで意見交流会を行いました。

参加者の感想

初めてのセミナー参加でした。参加者の皆さんが近隣県以外の中国四国、石川からも参加されていることに驚き、それぞれの地域での活動報告をうかがい活動への熱意を感じました。

久木田さんの講演をうかがって、UNICEFの支援のあり方が少しですが理解できたように思います。UNICEFが開発したプログラムが汎用され多くの国に広く活用されていく過程や、国の政策決定に介入して行くことができる機動力に驚きました。これこそ国連機関としての強みだと感じております。

ファウンド・レイジングの重要性についても話されましたが、これこそ私たちの出番かもしれません。企業のように一度に多額の寄付は出来ませんが、啓発と地道な募金活動は積み積みれば大きな力となります。我々の社会、世界が少しでもましなものとして次世代にバトンタッチできるように私たちは地道な活動を続けていきたいと思っております。

参加者の感想

久木田さんの講演は、国連やユニセフのことが今までより深く理解できました。これから、ユニセフのボランティアとして活動していく上で、ユニセフのことを正しく理解できたことで、迷いなく進めたいと思います。

また、ワールドカフェという形で、各地で活動しているボランティア会員の方との交流ができたことも良かったです。



夏休みユニセフ学習会 7月28日(火) 鳥取市さざんか会館

小学校5、6年生を対象に、「世界の貧困問題を考える」というテーマで、理事の中尾和則さんに講師をしていただき、ユニセフ学習会を開催しました。夏休みの自由研究として、世界の子どもたちの働いている現状を知り、子どもたちそれぞれが感じたことをまとめてくれました。

保護者の感想

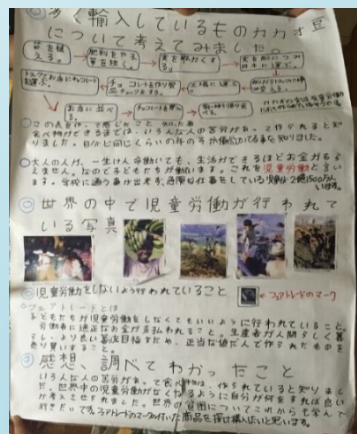
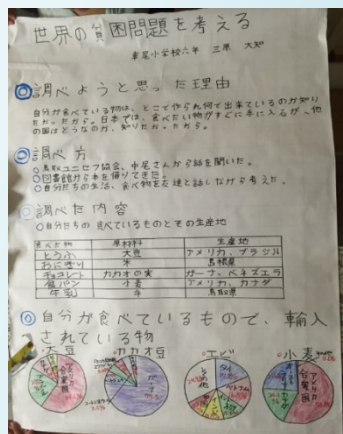
児童労働や、フェアトレードについて改めて考える機会となりました。買い物の際、フェアトレードマークの商品が意外に多い事に気づき、子どもと一緒に学習した事を思い出しながら購入しました。

小学生の感想

世界には、たくさん働いている子どもがいる事に驚きました。貧困問題がなくなり、みんなが勉強出来る社会になるとよいです。

小学生の感想

午前中に講師の方の話をじっくりきけたので、とても勉強になりました。午後からは各自、自由研究に向けて用紙にまとめることが出来て良かったです。テーマが子どもの労働だったので、自分と重ねて考え、今の自分は幸せだと感じました。



保護者の感想

講師の方がとても熱心だったこととユニセフボランティアさんのサポートがとても良かったです。少人数だったため、じっくりユニセフについて学ぶ機会が持てて、夏休みの宿題もほぼ1日で終わることもできて大変助かりました。



秋の催しに参加しました!

9/21(月・祝) よなご国際交流フェスティバル (米子市文化ホール)



出展ブースでは、「いのちの水」というワークブックを使っのワークショップ、水がめ体験、経口補水塩の試飲、国境カードの神経衰弱や腕の太さを測ってみる体験をしました。

ボランティアたちが親子連れを中心に積極的に呼びかけ、およそ100人に参加してもらい、参加者にはユニセフカードプレゼントしました。

水がめの重さに驚き、水の大切さや途上国の生活に思いをはせ、神経衰弱では楽しみながら世界の国旗を学んでもらいました。

また、ステージでは、100人位の方にユニセフクイズに参加してもらい、全問正解者にはユニセフグッズをプレゼント。そして、平和に関する絵本の読み聞かせをしました。募金は、経口補水塩に5,065円、シリア緊急募金に1,175円のご協力をいただきました。

10/25(日) せいきょうまつり (北栄町お台場公園)



支援物資展示&クイズや体験を行い、またこの日は東日本大震災支援の写真も展示しました。約80の方がブースを訪れて下さいました。ステージでは、子どもたちにも手伝ってもらって、ユニセフクイズを行いました。経口補水塩を送る募金に669円のご協力をいただきました。

10/4(日) 大山まきば祭 (大山まきばみるくの里)



秋晴れの中、支援物資の展示とそれに関するクイズを行いました。この日はユニセフボランティアだけでなく、米子西高校JRC部の生徒もスタッフとして活動してくれました。

家族連れなど約150名の方がユニセフブースを訪れ、支援物資とその説明を見ながら、クイズにチャレンジしてくれました。水がめを持つ体験や経口補水塩の試飲なども行い、クイズや体験を通してユニセフの活動と世界の子どもの現状を知ってもらいました。また経口補水塩を送るための募金に11,747円のご協力をいただきました。

日光小学校 出前学習会 10月14日(水) 伯耆町立日光小学校

目前に大山せまるすばらしい景色の日光小学校で、3名の5年生に総合学習の取り組みとして出前授業をしました。子どもたちは、英語や手話を入れて自己紹介をし、その積極的な姿から学習への意気込みや意欲がうかがえました。

導入に、ユニセフの意味や、支援によって井戸ができた村がかわったことを2枚の絵で見比べたり、日本も戦後や東日本大震災時に支援が行われてきたことなどを学習し、「世界の子どもたち」のDVDを視聴しました。世界の子どもたちが自分たちと大きく違った暮らしをしていることに驚き、当たり前暮らしがどんなに幸せなことかを感じたようでした。

この後、水のこと、病気が栄養不良、予防接種が受けられなくて亡くなっていく世界の子どもたちの現状などや、それを支援するユニセフの活動について学習を深めました。重い水がめ運びに苦労したり、マラリアを防ぐ蚊帳が珍しかったり、脱水を防ぐ補水塩を作って試飲してみたりととても関心を高めていき、1時間半たくさんのことを学び真剣に考えました。知ること、考えること、行動することが大事であることを子どもたちと確かめ合って締めくくりました。日光小の5年生からユニセフを発信してくれるものと期待しています。

